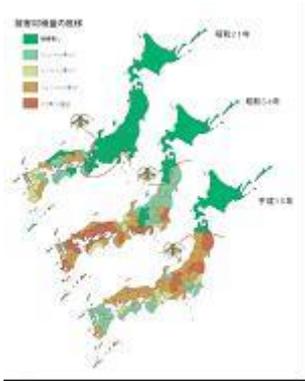


松原の衰退

わが国に固有の緑の文化を育んできた松原、そして国民の誰もが愛着を感じることのできる松原が衰退の危機にあります。白砂青松の松原が衰退した原因は、マツ材線虫病の蔓延、広葉樹の侵入、松原から人々の足が遠のいたことなどです。



マツ材線虫病の被害



ニセアカシアが侵入、クロマツが衰退し、広葉樹に置き換わった海岸松林



松葉堆肥

かつては農業を支えた堆肥供給源、日常生活を支えた燃料供給源



腐植の地掻き

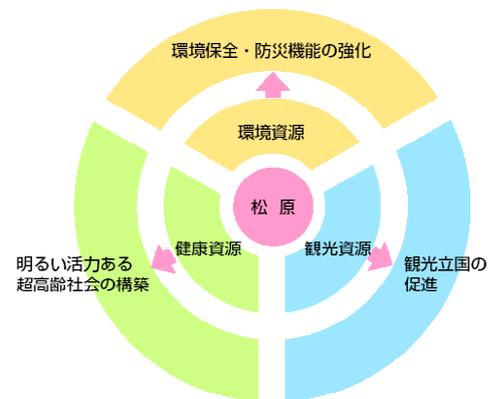


松炭

日本の松原再生運動—ねらい—

松原には3つの資源価値があります。松原から人々の足が遠のいてしまった点に着目して、松原の価値を高める活動を行うことを通じて、地域の人たちも元気になる社会的意義へ発展させていくことが大切です。

日本の松原再生運動は、松原と人との関係を再生することにより、ふたたび地域の人たちが松原へ足を運ぶことをねらいとしています。



3つの資源価値

環境資源 松原は、砂を止め農地を保護し、地球温暖化防止に役立ち、津波被害から生命と財産を守る！

観光資源 文化を育む美しい松原は、恩恵を受ける地場産業や観光産業を振興する良質な資源！

健康資源 マツは古来より長寿の象徴とされ、歩きやすい松原は地域の人たちの有効な散策の場！



松原を元気にすると地域の人たちも元気になる



3つの社会的意義

地域の環境保全や防災機能を高める取組へと発展する
地域の「光」として松原を自覚することが観光立国の促進に結びつく
「明るい活力ある超高齢社会」を構築することに貢献できる

日本の松原再生運動・第1期—2つの取組

このため平成 18～23 年度にかけて、2つの取組を進めながら松原再生運動を点から線へ、線から面へ広げてまいりました。

日本の松原再生事業

日本の白砂青松100選などの松原を対象に、松原を元気にする活動を続けることで、地域の人たちが松原に足を運び、松原の環境・観光・健康資源としての価値を活かし、地域の人たちが元気になる「人と松原の関係を再生」するモデルを作ります。

- 松原を有する地元と当センターが協働して、2年間かけて計画を作成します
- 当センターは計画作成に要する経費を負担します

環境資源に注目するモデル	観光資源に注目するモデル
<ul style="list-style-type: none"> ●歴史や産業の環境教育 ●津波に備える地域の相互扶助 	<ul style="list-style-type: none"> ●松原ブランドの農産物の開発 ●松原の育んできた文化の継承 
健康資源に注目するモデル	
	<ul style="list-style-type: none"> ●地元や都市に生活する人たちの健康増進 ●散策や自然観察による高齢者のレクリエーションや交流

子供の松原再生プロジェクト

全国の海岸線に接する市町村において、マツが消失した海岸に、もう一度マツを植えマツに親しむ活動を行います。

- 市町村と当センターが協働して、植樹、マツに親しむイベントなどを行います
- 当センターは松苗 500 本、看板作成、松保護士派遣に要する経費を負担します



子供たちが松原で「植える」「遊ぶ」「学ぶ」活動をする

松アカデミーの活動

マツにスポットをあて自然・人文・社会科学の分野における研究者のご協力を得て、マツに対する一般の理解を深めて頂く情報を発信する活動を行います。松アカデミー調査研究1「日本の松原物語」(平成 21 年 8 月)、調査研究 2「松原再生と地場産業の将来」(平成 22 年 8 月)、調査研究 3「日本の松原を再生する—松原再生計画と子どもの植樹計画の作り方」(平成 24 年 6 月)を作成しています。

日本の松原再生事業

平成18年度は、鶴岡市・酒田市・遊佐町からご提案頂いた、『大いなる遺産を未来につなぐ庄内の海岸林』をテーマとする、庄内海岸砂防林を対象に取り組むモデルを選定しました。

当センターと地元による「庄内海岸松原再生計画策定委員会」を設置し、平成20年3月に2年間かけた松原再生計画等の成果を作成しました。

- ・庄内海岸松原再生計画
- ・庄内海岸林施業管理指針
- ・庄内海岸林ボランティアの手引き
- ・松原ボランティアガイドブック

平成21年度は、次の2箇所の計画を策定しました。

- 伊勢市二見地区松林再生計画(三重県伊勢市)
- 三里松原再生計画(福岡県岡垣町)

平成23年度は、次の2箇所の計画を策定しました。

- 津田の松原再生計画(香川県さぬき市)
- 煙樹ヶ浜松原再生計画(和歌山県美浜町)



子供の松原再生プロジェクト

[平成18年度]

高知県黒潮町における『黒潮町の地域の人たちの優しさと共に豊かな自然を未来へ贈る』という小学6年生による卒業記念植樹の事例を選定、2007年2月27日に地元と当センターにより実施しました。入野小学校6年の宮地真宏君(12)は、新聞の取材に「きょう植えた苗木が大きく育って地球温暖化に役に立ってほしい。大人になったら順調に育っているか見に来たい」と答えていました。

[平成19年度]

宮崎県日向市伊勢ヶ浜における『黒潮文化と森林文化の融合、子供たちと海を愛するサーファーの交流の起点』をテーマに、2008年2月10日、小学校卒業生とサーファー、地元の方々200人と当センターにより記念植樹を実施しました。日知屋東小学校6年の小坂朱里さん(11)は、「これまで海水浴場に来ては松林はあまり気にしなかったが、これからは自分が植えた松の成長を見ていきたい」と話していました。

[平成20年度]

宮城県気仙沼市、東京都大島町、石川県加賀市、兵庫県南あわじ市、熊本県宇城市の5箇所で実施しました。

[平成21年度]

千葉県山武市、新潟県胎内市、三重県津市、島根県隠岐の島町、広島県廿日市、福岡県宗像市、長崎県東彼杵町の7箇所で実施しました。

[平成22年度] 山形県遊佐町で実施しました。



植えた松苗木に支柱をたてる子供たち



伊勢ヶ浜は小学校の卒業記念遠足の場所

日本の松原再生運動・第2期（平成24～28年度）－取組

当センターは2011年12月に公表した陸前高田市『希望の松』保護対策報告において、高田松原の再生については、「新たな組織体制の枠組みの中で、市に必要な提案をすることが考えられる」ことを表明していました。その後、陸前高田市および海岸林造成の実施主体である岩手県と情報交換を図りながら、高田松原再生のお手伝いについて意向を表明してまいりました。

このような経緯から、当センターは今後次のような考え方にもとづき、高田松原の再生に向けて高田松原を守る会など市民による再生活動を一緒に進めてまいります。

再生方針

高田松原の歴史と松原の特性を継承する形での再生を図ることが大切です

高田松原は340年あまりの歴史を有し、アカマツとクロマツ、その中間種が生育していました。

現在、高田松原を守る会が育てている松原由来のマツについて、樹脂道指数にもとづく判定法により、アカマツ型、クロマツ型、中間型に分類し、記録保存するとともに、特定の場所に植栽し維持管理することが大切です。

地元の人たちを基本とし全国の人たちも参画し松原再生に持続的に関わるしくみづくりが大切です

高田松原は明治・昭和の大津波に破壊され、その都度地元の人たちの力によって復活を遂げてきました。地元の人たちが植えた最初の1本から始まって、子どもたちや孫たちが未来の松原を育てる、このような再生のエネルギーを22世紀に向けて持続させるしくみをつくるのが大切です。

再生を進める3つの原則

再生をみんなで一緒に進めるという原則、『大勢の人たち』『顔が見える』『一緒に歩む』ことを大切にします。

その1 『大勢の人たち』の参加を促す

- (1) 植栽と保育に大勢の人たちが参加できることを工夫します
- (2) 植栽に参加できない人たちにも参加意識を共有できる場、方法を工夫します

その2 『顔が見える』ような参加をめざす

全国の海岸林の植栽や保育に従事する人たちと、情報や人の交流を図るしくみを構築することを考えています。

その3 『一緒に歩む』ような進め方にする

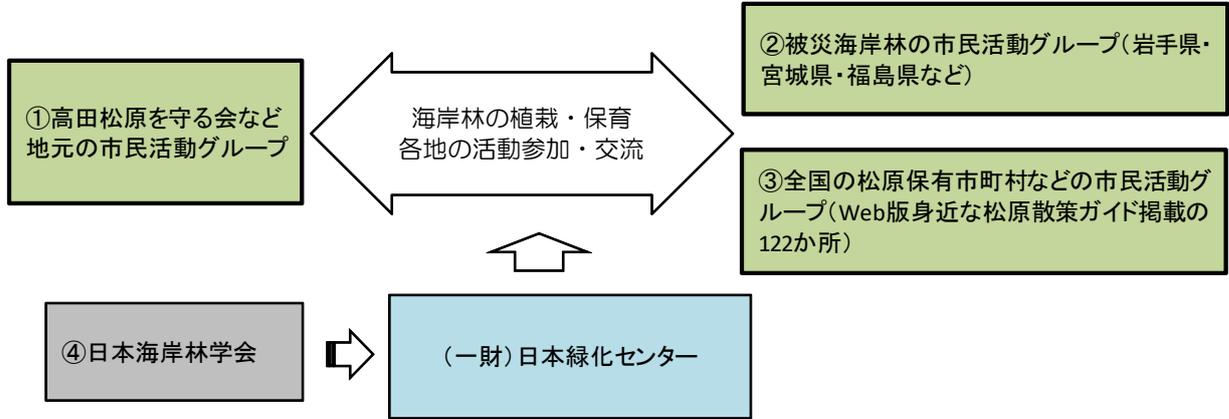
市民向けや松原の保育ボランティアをめざす人向けの講座の開催、全国の松原市町村の活動グループ、日本海岸林学会、高田松原を守る会など地元のグループによる松原再生の動きを持続させるための新たな体制づくりなどが大切です。

以上の再生方針、3原則にもとづき、次のような再生活動を進めます。

- (1) マツ苗の育成(平成27年4月開始)
- (2) 陸前高田市小友町での試験植栽(平成27年4月開始)
- (3) 1線堤と2線堤の間に造成される植栽基盤での植栽と保育
- (4) 市民・保育ボランティア向けの「高田松原再生講座」の開催(平成30年2月に第4回を開催)

日本の松原再生運動・第3期（平成29～令和3年度）一取組

運動の第1期のねらいは、松原への「共感」を呼び起こすことにあり、第2期は、松原再生への「行動」を促すものでした。そこで、第3期は、次のような松原再生の「連携」を図ることをめざします。



第3期の「連携」概念図

〔関係組織との連携〕

①高田松原再生に取り組む地元の活動主体

高田松原を守る会を中心に、これまで除草作業等に参加した県内外ボランティアおよび気仙地域(陸前高田市、住田町、大船渡市)の企業、団体の割当・自由参加方式により保育活動を進める。2019年12月に「アダプト方式による高田松原の保育活動」勉強会を開催、気仙地域2市1町の関係者による意見交換を行った。

②被災海岸林の活動グループとの連携

岩手県、宮城県、福島県の被災海岸林で活動するグループとのネットワークづくりを図る。

第4回高田松原再生講座(平成29年度)で根浜地区海岸林再生実行委員会共同事務局から「釜石市根浜海岸の松原再生の現状とこれから」を報告。

第5回講座(平成30年度)でゆりりん愛護会から「ゆりりんの森から～海岸林再生と市民活動」を報告。

今後、3県の活動主体による勉強会、意見交換を継続的に進める。

③松原姉妹提携のパートナーとなる松原活動主体

既存松原の活動主体と被災海岸林の活動主体との間で人の交流、ノウハウの交換を図るため松原姉妹提携を進める。

山形県庄内地域にある出羽庄内公益の森づくりを考える会は、行政機関や林業関係団体に加え大学、小中学校など幅広い多様な主体が、庄内砂丘の海岸林保全という共通の課題に向かって、情報や意見を交換する会である。

万里の松原に親しむ会は、酒田市にある国有林で市民の憩いの森林空間を整備する活動に取り組む。

庄内海岸のクロマツ林をたたえる会は、毎年クロマツシンポジウムを開催している。

佐賀県唐津市にある虹の松原保護対策協議会は、県、市、国有林に市民団体が参加する保全活動母体で、NPO法人唐津環境防災推進機構(KANNE)が虹の松原再生保全活動の事務局を務める。

2018年6月の高田松原植樹祭に市・3団体から6名が参加、植樹後に守る会と今後の交流について意見交換。

④松原の学術的知見を有する組織との連携

日本海岸林学会は、海岸林に関する研究の進歩発展を図り、もって海岸林とそれをとりまく環境の保全、生活環境の改善等に寄与することを目的とする。

高田松原では学会関係者等による植栽技術検討委員会を設置、植栽基盤盛土の試験植栽(土壌硬度と根系伸長)を行い、優良な盛土の土壌硬度を実現する造成手法に関する知見を得た。松原で植栽木の根系伸長を確認する調査などを継続実施した。

将来にわたり、被災海岸林の本数調整伐、マツ材線虫病の防除、マツ葉・剪定枝等の活用など松原再生に資する研究支援を得る。

また、マツの保全に関する技術を提供できる日本樹木医会、松保護士会との連携を進める。

当センターは、NPO 法人高田松原を守る会など地元の市民活動グループと連携し、各主体との円滑な連携を図りながら全体調整を進める。

日本の松原再生運動・第4期(令和4~8年度)一取組

第3期において、松原再生の「連携」を図ることとし、主として高田松原の再生に取り組んだ。2021年5月には全体植樹面積8haのうち、岩手県植樹分6haに続き、市民エリア2haの植樹がようやく完了した。

今後、運動は第4期に入り、地元の人たちの活動による植栽した松の保育(下刈等)について、必要に応じて助言などの協力を行うとともに、行政と市民ボランティアの「協働」による海岸林の保全・再生に資する情報発信を行う。

市民による高田松原再生活動に関する機関誌『グリーン・エージ』掲載記事

<http://www.jpgreen.or.jp/greenage/>

2015/3	第1回 高田松原再生講座報告
2015/4	市民による高田松原再生活動について
2015/5	高田松原再生に向けた苗木試験植栽の実施
2016/3	第2回 高田松原再生講座報告
2016/3	第3回 高田松原再生講座報告
2017/6	陸前高田市の試験植栽地における植栽基盤盛土の現状と課題／長谷川秀三
2017/6	陸前高田市・高田松原における植栽と保育／瀧 邦夫
2018/3	第4回 高田松原再生講座報告
2018/5	2018年度「高田松原」再生植樹祭の報告
2019/3	第5回 高田松原再生講座報告
2019/5	2019年度「高田松原」再生植樹祭の報告
2020/3	第5回 高田松原再生講座報告
2020/5	陸前高田の保育システム／瀧 邦夫

日本緑化センターの松保護への取組

人材育成 松保護士認定者数(令和3年12月現在、810名) ※令和2年度は未実施

出版

普及・技術図書 <http://www.jpgreen.or.jp/book/>

マツ再生プロジェクト	DVD/松再生プロジェクト	身近な松原散策ガイド	松原の生き物発見
松原の生き物百科	松原再生ハンドブック	マツと遊ぼう	マツに親しもう
松保護士の手引き	松林保護シンポジウム記録集	DVD/よみがえれ白砂青松ーマツに挑む技術者たち	
松アカデミー調査研究1ー日本の松原物語		松アカデミー調査研究2ー松原再生と地場産業の将来	

海岸防災林再生に向けた活動組織づくりの手引き(案)
ダウンロード → <http://www.pinerescue.jp/jiten/matsu/books/2015/kaigan.html>

機関誌グリーン・エージ特集 <http://www.jpgreen.or.jp/greenage/backno.html>

2004.4	松の緑を守る	2006.7	日本の松原再生シンポジウム
2006.2	日本列島松回廊構想	2009.6	松林の再生に向けて
2008.6	日本の松林を守る松保護士	2011.6	海岸林の再生に向けて
2010.6	松枯れの考察と保全活動	2012.5	海岸林再生への動きを探る
2011.10	震災復興における緑の役割と課題	2012.10	震災復興における海岸緑地の役割と再生の課題
2012.6	松林防除の技術課題を考える	2013.10	震災復興記念施設としての公園緑地の役割と課題
2013.6	松林保全の軌跡と展望	2015.4	これからの海岸林造成を考える
2014.5	松林を保全する多様な主体の役割を考える	2015.6	マツのある風景を考える
2005.3	「松の文化」を守ろう	2016.6	最近の松枯れ対策を考える
2017.6	被災海岸林の植栽と保育	2018.6	マツ材線虫病をめぐる最近の研究
2019.5	海岸防災林再生で見てきた新たな課題を考える	2020.5	100年先の高田松原に想いを馳せて
2021.5	被災海岸林はどのように再生したか	2022.4・5	マツのある風景／新連載「松保護士のひろば」

松枯れ防除実践講座(年度) <http://www.pinerescue.jp/torikumi/event/>

17	広島県	18	秋田県	19	宮城県	20	長野県	21	福岡県	22	千葉県
23	和歌山県	24	石川県	25	岩手県	26	長野県	27	鳥取県	28	青森県
29	兵庫県	30	秋田県	R元	福井県	R2	中止				

シンポジウム(年度)

17	松林保護シンポジウム	18	松原再生シンポジウム～日本の松原再生運動
19	松原再生シンポジウム～白砂青松を考える	21	松原再生～松原再生と地場産業の将来を考える
24	松原再生～これからの松原、地域を再生するために	25	松枯れ対策～松枯れ防除の課題
26	松枯れ対策シンポジウム 2014	28	松枯れ対策シンポジウム 2016
30	松枯れ対策シンポジウム 2018	R2	松枯れ対策シンポジウム 2020(Web配信)